

授業概要

この授業では新古今時代の歌人を中心に、中世和歌について講義する。和歌には、①コミュニケーションツール、②文芸的な芸術作品、という二つの側面がある。一二世紀（1100年代）ごろからは、文芸性の高い作品が多く詠まれるようになるため、中世和歌を読むためにはいくつかの約束ごとを理解する必要がある。

授業の前半（第2～5回）では、そうした約束ごとの説明を行う。後半（第6～14回）では、覚えておくべき有名な歌人について概説し、その作品を見ていく。王朝文化が衰退していく中で生きた人々がどのような和歌を詠んだのか、味読してほしい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	中世和歌の三要素① 一題詠一
第 3 回	中世和歌の三要素② 一歌合一
第 4 回	中世和歌の三要素③ 一定数歌一
第 5 回	百首歌について
第 6 回	歌人列伝① 源俊頼
第 7 回	歌人列伝② 西行
第 8 回	歌人列伝③ 藤原俊成
第 9 回	歌人列伝④ 式子内親王・寂蓮
第 10 回	新古今時代について
第 11 回	歌人列伝⑤ 藤原定家
第 12 回	歌人列伝⑥ 藤原良経・慈円
第 13 回	歌人列伝⑦ 俊成卿女・宮内卿
第 14 回	歌人列伝⑧ 後鳥羽院・源実朝
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ①中世和歌を読解する上でもっとも基本的な三つの要素を理解する。
- ②著名な歌人について、どのような人物なのか、どんな歌を詠んでいたのか理解する。
- ③平安後期～鎌倉初期の和歌史について理解する。

履修上の注意

単体で履修しても問題無いが、同じく和歌についての講義である「日本文学入門」と併せて受講すると、より授業内容が理解しやすい。

予習・復習

最終回の定期試験に向けて復習は怠らないように。

評価方法

質問に対する答えを含めた授業態度（20%）・定期試験（80%）の結果によって判断する。

テキスト

授業中に適宜プリントを配布する。浅田徹『百首歌 祈りと象徴』（臨川書店）には、中世和歌の基本事項について簡潔にまとめられている。渡部泰明『和歌史』（角川選書）は、歌人ごとに説明があって便利。